



I'ROM GROUP



第21期報告書

2017年4月1日▶2018年3月31日

トップメッセージ

グループのさらなる発展を目指し、 変革と革新に挑み、飛躍に向け進化し続けます

平素はひとかたならぬご支援とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

医療業界においては、世界的に治療技術の目覚ましい発展が続いており、がんや難治性疾患等の革新的治療法として、遺伝子治療や再生医療の実用化が期待されています。

治療技術の発展による医療業界の変化への迅速な対応とグループの一層の発展に向け、当社グループでは、自社における医薬品・医療技術の開発促進に加え、積極的なM&A、海外への事業展開、設備投資ならびに人材育成等、戦略的な投資を続けてまいりました。

その一環として、2018年3月期においては、(株)エシックとオーストラリアのCMAXを完全子会社化するとともに、

GMPベクター製造施設・CPCを本格稼働させることで、グループの事業基盤や支援領域が拡大しました。また、各事業における取り組みの確実な積み重ねの成果が売上や利益に現れ、復配を実施いたしました。これもひとえに、株主の皆様への長きにわたるご支援の賜物と感謝申し上げます。

2019年3月期においては、これまで築き上げてきた事業基盤を深めることで、持続する売上成長を確保するとともに、グループ全体で絶えず変革と革新に挑み、新たな事業展開を進め、グループのさらなる発展を実現してまいります。

今後とも皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 森 豊隆

◎ 企業理念

「明日への希望をつなぐ医療を目指して進み続ける」

◎ 中長期的な経営方針

「変革と革新」・「人材教育の徹底」により、
企業価値の向上を目指す

◎ 2019年3月期連結業績予想

売上高	11,500百万円
営業利益	1,200百万円
経常利益	1,200百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	700百万円

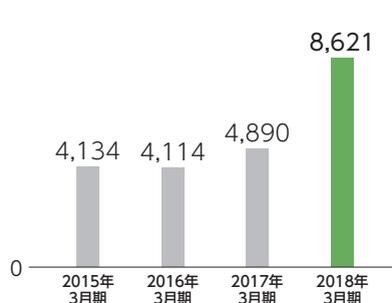
決算ハイライト



- ✔ SMO事業とCRO事業の伸張により、売上高8,621百万円(対前期76.3%増)
- ✔ 全事業セグメントにおいて売上・営業利益が拡大
- ✔ 剰余金の配当を実施(中間：記念配当10円、期末：普通配当10円の計20円)

連結売上高

(単位：百万円)



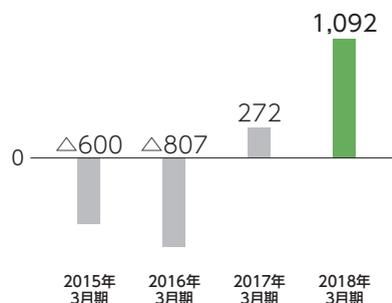
連結営業利益又は営業損失

(単位：百万円)



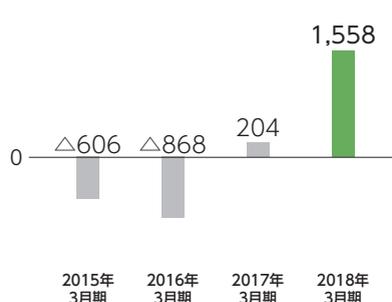
連結経常利益又は経常損失

(単位：百万円)



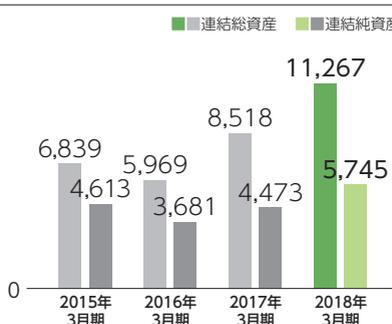
親会社株主に帰属する当期純利益又は

親会社株主に帰属する当期純損失 (単位：百万円)



連結総資産／連結純資産

(単位：百万円)



自己資本比率

(単位：%)



セグメント別の状況

SMO事業 73.0%

売上高 6,292百万円

営業利益 1,694百万円

- (株)エシックのグループ化により、支援を行う疾患領域や提携医療機関数が拡大
- 売上高は74.2%増、営業利益は約2倍に拡大

先端医療事業 4.9%

売上高 423百万円

営業利益 22百万円

- GMPベクター製造施設における受託製造が順調に推移
- iPS細胞作製技術のライセンスアウトが拡大

CRO事業 15.4%

売上高 1,324百万円

営業利益 37百万円

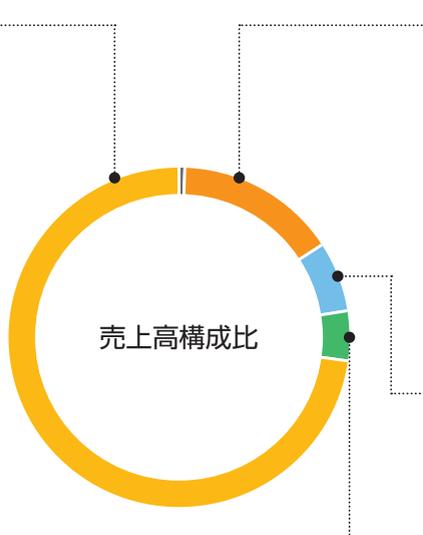
- CMAXのグループ化により、収益が大幅に増加
- アジア地域への支援が堅調に拡大

メディカルサポート事業 6.6%

売上高 568百万円

営業利益 110百万円

- クリニックモール事業が堅調に推移



セグメント情報

アイロムグループは、4つの事業を通じて、新しい医薬品・医療技術を患者様にお届けするためのあらゆるプロ

先端医療事業

先端医療事業を推進する(株)IDファーマでは、優れた遺伝子導入技術と開発力を活かし、遺伝子治療や再生医療等の早期実用化に向けて、医薬品や医療技術の開発に取り組んでいます。研究用および臨床用のiPS細胞作製キット「CytoTune®-iPS」を全世界に向けて販売するとともに、製薬企業や研究機関に対し、iPS細胞作製技術等のライセンス活動を積極的に行っています。また、基盤技術として保有するセンダイウイルスベクター等のベクター技術を用いた遺伝子治療製剤等の研究開発を推進するとともに、GMPベクター製造施設・CPCにおいて受託製造を進めています。

成長戦略

先端医療の進化と実現に向け、臨床開発と事業基盤の拡大を推進します

(株)IDファーマ独自の技術であるセンダイウイルス (SeV) ベクターは、安全性と遺伝子導入効率に優れ、ベクターの世界標準になることが期待されており、当社はこの技術を用いた医薬品等の実用拡大を目指し、ライセンス活動を積極的に実施しています。2018年3月期は、米国メイヨー・クリニックやグローバルメガファーマをはじめ、複数の製薬企業・研究機関と、SeVベクターを用いたiPS細胞作製技術のライセンス契約を締結しました。

SeVベクター等の遺伝子導入技術を応用した、虚血肢治療製剤や難聴治療製剤等の各パイプラインの開発も引き続き推進しています。

- iPS細胞作製技術のライセンス契約
- その他のライセンス契約 (遺伝子創薬パイプライン、細胞治療製品など)



2018年4月末現在 ※取引先との契約上公開できないものを除く

2019年3月期の
取り組み

- コア技術であるセンダイウイルスベクターのさらなる普及とパイプラインの充実
- GMPベクター製造施設・CPCにおける受託製造の拡大

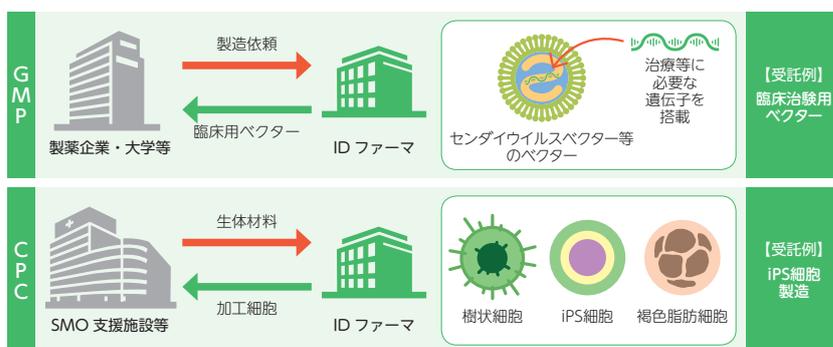
先端医療事業



1

GMP^{※1}ベクター製造施設・CPC^{※2}における受託製造は順調に進捗

2017年4月より本格稼働を開始したGMPベクター製造施設・CPCでは、本格稼働初年度でありながら、複数の案件の受託製造を行いました。2019年3月期以降についても、国内外からの受託が堅調に推移しており、製造体制や品質のさらなる強化を図りながら、引き続き積極的に案件を受託し、製造実績を積み重ねてまいります。



用語解説

- ※1 GMP : Good Manufacturing Practice のことで、医薬品の安全性を確保するための製造管理及び品質管理に関する基準のこと。厚生労働省による省令によりその基準が示されている。当社のGMPベクター製造施設においては、臨床試験用ベクターや臨床試験に用いる治療製品の製造が可能な環境が整っている。
- ※2 CPC : Cell Processing Center (細胞培養加工施設) のことで、臨床用の細胞の培養・加工を行うための専門の施設。

セスに寄与し、「明日への希望をつなぐ医療」を目指し進み続けています。

SMO事業

SMO (Site Management Organization : 治験施設支援機関) は、医療機関と契約し、関連法規に基づき適切かつ円滑な臨床試験が迅速に実施できるよう様々な業務を支援しています。世界的に治療技術が目覚ましく発展する中、生活習慣病等が中心であった製薬企業の医薬品開発は、がんなどの難治性疾患へとシフトしています。更に、先端医療の実用化が期待されるなど、臨床試験を含む医薬品開発を取り巻く環境は著しく変化してきています。当社グループは積極的な業容拡大を進めつつ、環境の変化に対応できる体制の確保と知識や技術の向上に努めています。

成長戦略 人材教育の徹底により、臨床試験を取り巻く環境の変化や先端医療分野の医薬品開発に対応する高品質なサービスの提供を推進します

治療技術の発展に伴い、医薬品の開発はがんや難治性疾患等の疾患分野へと移行してきており、さらにはそのような疾患の革新的治療法として再生医療等の医薬品開発が進められています。また、新たな臨床試験の規制では特に医療機関での品質向上による、被験者様の保護と信頼性の確保が求められています。このような流れの中で、アイロムグループでは高品質なサービスや医療機関でのプロセス管理、品質管理等の支援を行う、新たな臨床試験支援モデルの創出と実施に注力しています。

対象疾患や治療法の複雑化・多様化に加え、急速に変化する医療に迅速に対応すべく、アイロムグループでは、人材教育にさらに力を入れ、プロフェッショナルの育成に努めていきます。



2019年3月期の
取り組み

- 新たな臨床開発支援モデルの積極的な創出と実施により収益を拡大
- 人材教育の徹底により、難易度の高い疾患に対する試験にも対応できるプロフェッショナルを育成

SMO事業

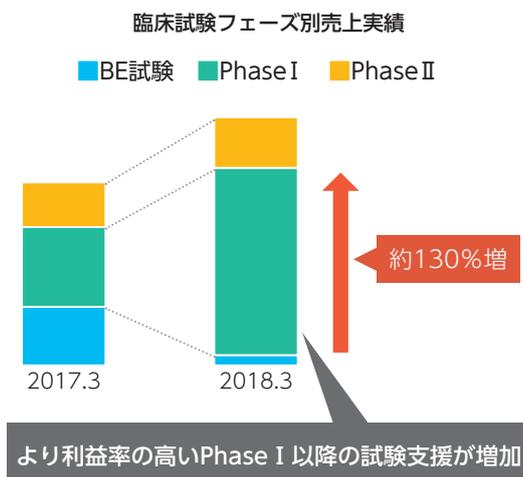


2 クリニカルリサーチ東京病院における臨床試験支援を強化

グループ傘下の臨床試験実施施設である、一般社団法人ICR附属クリニカルリサーチ東京病院は、病床数50床の国内有数規模の施設として、早期臨床試験を中心に国内外の製薬企業から試験を受託しています。

グループのもつ医療機関とのネットワークなどを活用した専門医の確保や、迅速かつ適切な患者様の組入が評価され、幅広く実績を積み重ねることで、業績も堅調に伸張しています。

2018年3月期には、早期臨床試験のエキスパートである医師が参画し、院内体制と品質の強化に努めています。今後は、提携医療機関との連携等により病床数を延べ250床まで拡大することで、さらなる事業発展を目指します。



CRO事業

CRO（Contract Research Organization：開発業務受託機関）は、医薬品・医療機器・再生医療等製品の治験を含む臨床研究等に関わる製薬企業等の業務を代行・支援する受託機関です。当社グループのCRO事業では、オーストラリアを核として、欧米や日本を含むアジア地域の製薬企業等の医薬品開発を支援しています。



成長戦略

オーストラリア・CMAXにおいて、
欧米に加えアジア地域からの試験受託を拡大します



2017年8月に100%子会社となったオーストラリアの臨床試験実施施設であるCMAXは、今年で開設25年目を迎えました。CMAXはアイロムグループの主要な海外拠点として業績に貢献するだけでなく、オーストラリアにおける臨床試験事業のパイオニアとして培ってきた経験とノウハウにより、アイロムグループ各事業の品質や業務効率の向上に寄与しています。CMAXは欧米製薬企業からの試験を多く受託していますが、2018年3月期においては、医薬品開発の動きが著しいアジア地域の製薬企業に対する取り組みを強化し、順調に事業を拡大しています。一方、日本国内においては、再生医療等製品などの臨床開発支援の拡大を目指します。



2019年3月期の
取り組み

- アジア地域の製薬企業からの先端医療製品等の早期臨床試験の受注拡大
- 日本国内における、製薬企業やバイオベンチャーに対する再生医療等製品などの開発支援の拡大

メディカルサポート事業

メディカルサポート事業では、開発事業者や不動産会社などと連携して、駅からのアクセスや地域の医療機関の需要など、様々な条件を満たすクリニックモールを開設しています。また、開設後の運営管理にも力を入れており、クリニックモールでの開業を検討する医師に対して開業支援を手がけるとともに、開業後の医療機関に臨床試験を紹介するなど、その経営を多角的に支援しています。



成長戦略

クリニックモールの運営により
安定した収益を確保します

メディカルサポート事業においては、引き続きクリニックモール等の運営により安定した収益の確保に努めます。また、製造施設や臨床試験実施施設をはじめとした、グループ各事業の施設整備を行うことで、各事業の展開促進をサポートします。



2019年3月期の
取り組み

- 管理効率の向上等によるクリニックモール事業の推進
- グループ各社の施設整備を適切に行い、グループ各事業の円滑な展開を支援

会社の状況 (2018年3月31日現在)

会社概要

会社名	株式会社アイロムグループ		
設立年月日	1997年(平成9年)4月9日		
資本金	3,513百万円		
本社所在地	〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム		
連結従業員数	666人		
連結子会社	株式会社アイロム 株式会社エシック 株式会社アイクロスジャパン CMAX Clinical Research Pty Ltd 株式会社IDファーマ 株式会社アイロムPM (他13社)		

経営体制

(2018年6月27日現在)

代表取締役社長	森 豊隆	取締役 (監査等委員)	渡辺 潔
取締役副社長	朱 亜峰	社外取締役 (監査等委員)	佐々木秀次
取締役	原 寿哉	社外取締役 (監査等委員)	高橋 壮志
取締役	松島 正明	社外取締役 (監査等委員)	小駒 皆子
取締役	犬飼 広明	社外取締役 (監査等委員)	
取締役	深瀬 広幸	社外取締役 (監査等委員)	
取締役	菊岡 正芳		

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日(中間配当を行う場合は9月30日)
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-288-324 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。 http://www.iromgroup.co.jp/ ただし、やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式の状況

発行可能株式総数	37,281,680株
発行済株式の総数	11,703,665株
株主数	10,641名

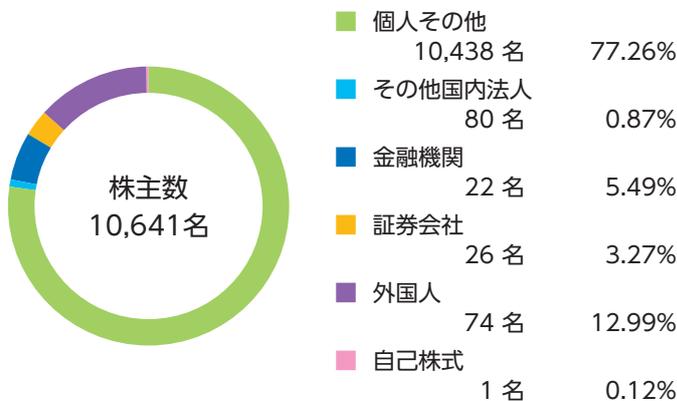
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	4,754,250	40.67
森 利恵	825,000	7.06
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアント アカUNT エスクロウ	193,832	1.66
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカUNT ジェイピーアールデイ アイエスジー エフイーエイシー	190,669	1.63
OBERWEIS INTERNATIONAL OPPORTUNITIES INSTITUTIONAL FUND	155,500	1.33
シービーエヌワイオーパーワイスインターナショナル オポチュニティーズファンド	134,600	1.15
渡邊 定雄	130,000	1.11
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	122,800	1.05
ピーエヌワイエム エスエーエヌパイ ピーエヌワイエム ジーシーエム クライアント アカUNT エム エルエスシーピー アールデイ	118,790	1.02
神林 忠弘	110,000	0.94

(注) 持株比率は、自己株式(14,005株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布

※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。



ホームページのご案内

当社のホームページでは、各事業のより詳しい内容や当社の最新の情報を掲載しています。また、IR情報のページでは、財務ハイライトや開示書類をご確認いただけますので、是非一度ご覧ください。

<http://www.iromgroup.co.jp/>

アイロムグループ



● 当社ホームページ

● IR情報

IR情報のページ
クリック!

株式会社アイロムグループ

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2

<http://www.iromgroup.co.jp/>

